

### 総合的な探究の時間（総探）の新たな取組

本校では「総合的な探究の時間」を「Sim TaMano 2030」と銘打ち、玉野市の地域課題に着目して、地域資源を活かしたPBL（課題解決型学習）を展開してきた。

そして、今年度入学生から、2年次に実施するエリア探究（通称「ブラタマノ」）の実施に向けて、「Sim TaMano 2030」は大きな変革期を迎えた。

生徒たちが学校を飛び出して地域を探索し、企業人や地域を支える大人の方々と交流する中で、玉野の魅力やポテンシャル、地域課題の解決のヒントを掴む活動に向けて動き出したのである。

今年度は、来たるべき「ブラタマノ」に向けての助走期間として地域探究に必要なスキルやマインドを身につけるための様々な授業を計画・実施した。また、自身の「在り方・生き方」を考えながら課題の発見や解決について取り組む総探は、キャリア教育の一端も担っている。そこで、学習テーマによっては、1年次の進路学習と有機的に繋がるよう、実施時期や学習方法を工夫した。

## 1 組織、運営体制

総探企画推進室長を中心に、年次主任・副主任、年次総探係で企画、立案を行った。そして、ユニットごとに担当者を決めて指導案・ワークシートなどを作成し、年次会議等で年次団教員への説明、調整を行った。

また、今年度から務める本校の地域コーディネーターに、アドバイザーとして関わっていただいた。コーディネーターは民間での豊富なご経験をお持ちのアイデアマンで、多角的な視点で総探を進化・深化させる様々な助言をいただいた。それらの中には教員では発想し得ないものも多く、打ち合わせでは大いに刺激を受けた。

20名を超える地域人と生徒を繋ぐ交流会「玉高エジソン」や、玉野各地の事業所にご協力いただいた課題解決学習「ミッション de ポッシブル」は、コーディネーターの協力なくして実現はしなかったであろう一大企画であり、2年次の「プラタノ」に向け、地域と繋がる絶好の機会となった。

## 2 授業の基本的な構成

授業は、1つのテーマについて、

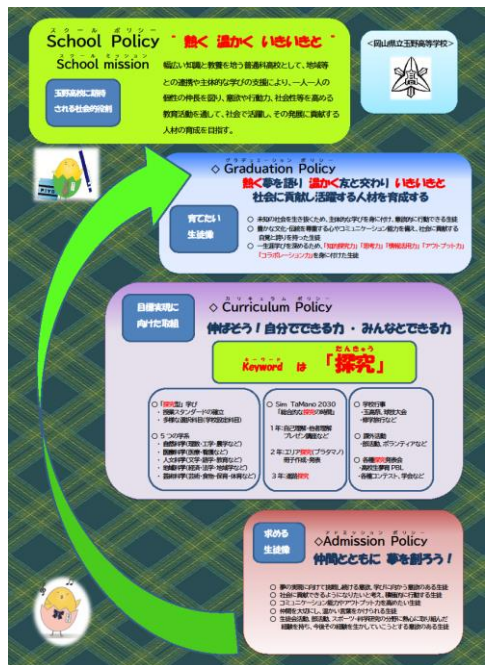
- ① 課題の設定（目標の確認・共有）
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現（発表、振り返り）

というサイクルを1ユニットとし、1ユニットを4時間で構成することを基本とした。

これまでの「総探」で蓄積してきた経験とノウハウを活かしつつ、新しい授業をつくっていくということで、常に試行錯誤し、各授業での生徒の様子や、総探を通じて身につけたい力を踏まえ、軌道修正を繰り返した。

本校のスクールポリシーでは、生涯学びを深めるため、知的探究力、思考力、情報活用力、アウトプット力、コラボレーション力の5つの力を身につけることを目標としている。

ユニットごとの授業においても、情報を収集・吟味したり、考察しアウトプットする場面を多く設定した。



### 3 授業の実際

#### (1) 85期生「総合的な探究の時間」授業計画

ユニット	実施日	内容	担当	場所	備考
U0	4/17	オリエンテーション	室長	武道場	
<b>U1 学部・学科を知る</b>					
U1-1	4/24	学部・学科調べの目的と流れを確認する どのような学問分野があるか調べる	担任	HR	逆引き大学辞典WEB「系統別学問内容リサーチ」を利用
U1-2	5/1	WEBでの調査方法について学ぶ 学部、学科についての情報収集	担任	HR	様々な情報ツールについて学ぶ
U1-3	5/2	発表資料の作成	担任	HR	K P法にて実践
U1-4	5/8	発表、振り返り	担任	HR・講義室	
<b>U2 いろいろな職業を知る</b>					
U2-1	5/22 or 23	職業調べの目的と流れを確認する どのような職業があるか調べる	担任	図書館	まずは職業分野に注目
U2-2	5/29 or 30	職業についての情報収集	担任	図書館	県立図書館から関連書籍を拝借
U2-3	6/5	発表資料の作成	担任	HR	Googleスライドを使用
U2-4	6/12	発表、振り返り	担任	HR・講義室	
<b>U3 マナー講座（自己理解講座）</b>					
U3-1	9/18	対面マナーについて学ぶ なぜ自己理解が必要かを知る（考える）	校長、年次教員 総探CN	体育館	
U3-2	9/25	マナーの実践 講師の経験談や人生観等を聴く中で、自身の将来や現在について考える（自己理解を深める）	外部講師、室長	ゆかし	講師：ココ古書店店主 宮本万平様、宮本静香様
U3-3	10/2	自己紹介カードの作成、交流、振り返り	年次教員	HR・講義室	エジソン講師の自己紹介カードを紹介 ミックスクラスで実施
<b>U4 コミュニケーション講座（玉高エジソン）</b>					
U4-1	10/16	エジソン講師との交流に向けて、自己紹介できる準備をする コミュニケーションを考えるための「マインド」を掴む	担任	HR・講義室	他者理解に向けて、「伝える」「伝わる」の違いを意識する
U4-2&3	10/23	玉高版エジソン 外部講師とのコミュニケーション	年次主任、室長 総探CN	体育館	地域で活躍する21名の講師を招聘
U4-4	10/30	振り返り 講師へのメッセージカード作成	担任	HR・講義室	
<b>U夏 私だけの夏休み探究プラン</b>					
U夏-1	7/23	夏休みの探究計画を立てる	担任	HR	自分の興味・関心のあることについて深める (オープンキャンパスなど)
		夏休み 計画を実施する			
U夏-2	9/11	夏の探究活動とその成果について発表、振り返り	年次教員	HR・講義室	Show & Tell の形で発表 ミックスクラスで実施
<b>U5 プレゼンテーション講座</b>					
U5-1	11/13	「見せる/魅せるとは？」「プレゼンテーションとは？」について考える	担任	HR	玉高版「プレゼンのルール」をつくる
U5-2	11/20	効果的なプレゼンテーションについて考える	外部講師、室長 総探CN	体育館	講師：インフルエンサー 笹部正孝様（本校卒業生）
U5-3	11/27	スライドの作成 (テーマ：ワタシの「推しの空間・場所・店など」)	担任	HR・講義室	玉高版「プレゼンのルール」に基づく
U5-4	12/18	相互発表、振り返り	年次教員	HR・講義室	ミックスクラスで実施
<b>U6 ミッション de ポッシブル（以下、予定）</b>					
U6-1	1/15	オリエンテーション	室長、総探CN	体育館	
U6-2	1/22	チーム編成 割り当てられた事業所について情報収集する	年次教員	HR・講義室	エジソン講師等をチーム支援員とし、アドバイスをいただく
U6-3	1/29	各事業所の抱える課題についてリサーチする	年次教員	HR・講義室	
U6-4	2/5	各事業所よりミッション（探究課題）発表	年次教員	HR・講義室	オンラインにて実施予定
	2/12	SDG s 講座（SDG s について学ぶ）	外部講師、担任	うまし、社会	
U6-5	2/19	中間報告を行う 事業所よりセカンドミッションの提示	年次教員	HR・講義室	オンラインにて実施予定
U6-6	3/4	最終発表を行う	未定	未定	
<b>U7 2年次に向けて</b>					
U7-1	3/5	1年間の振り返りを行う	担任	HR	
	3/6	2年次生総探最終発表会		体育館	
U7-2	3/7	春休みの探究計画を立てる	担任	HR	

## (2) 概要

### ◎学部・学科調べ、職業調べ

従来、進路研究はLHRの時間等を使って行ってきた。総探でも早い時期のユニットで「キャリア調査」を行う計画であったので、これらの進路学習を個々に行うよりも、互いに関連するものとして計画・実施した方が効果的であると考え、ユニット1と2を構成した。また、探究的な学習の端緒ということもあり、このユニット学習の中で、情報を検索・収集する方法を学ぶこととした。そして、KP法を用いた発表の後、スライドを使用したプレゼンを経験させる等、2つのユニットを通じて、情報の整理やアウトプットのやり方を段階的に学べるようにした。

### ◎コミュニケーション講座（玉高エジソン）

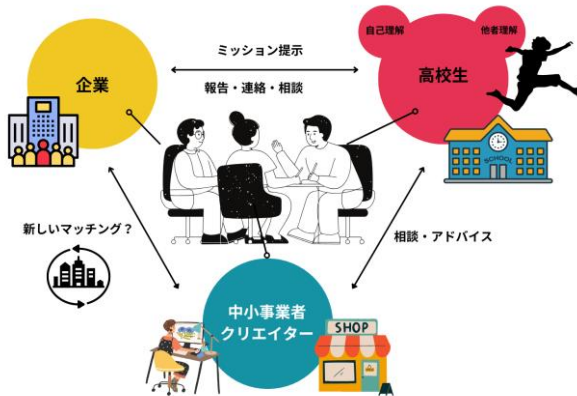
実際に地域に出掛けて探究活動を行う際、円滑にコミュニケーションを取れるよう、そのスキルを高めるため、コミュニケーションについて考え、実践する場を設けた。相手に合わせた言動を取るためには相手を理解することと同時に、「自己理解」も欠かせない。自分の個性（強みや弱み、価値観）を知ること、自分に合った方法を選択でき、他者から見た自分がどのように見えているのか客観的に考えることができる。



そこで、コミュニケーション講座に先立ち行ったマナー講座では、マナーの習得のみならず「自己理解」を深めることを大きなテーマとした。生徒は自己紹介で使用する「自己理解シート」をつくり、他クラスのメンバーとのグループで、相互に自己紹介を行った。この頃、エジソンに参加する地域の方々から続々と「自己理解シート」が寄せられていて、教員も各自のシ

ートを頭を悩ませながら楽しく作成した。これらのシートを公開し、生徒の参考とした。

エジソン当日は、21名の様々な経歴の持ち主に講師として協力いただいた。経歴は違えど、ご自分のお仕事や生き方に「ワクワク」を感じている方ばかりで、生徒は7～8人のグループに分かれ、講師を囲んで車座になって交流を行った。アイスブレイクの後、自己理解シートを使って自己紹介し、自分の「ワクワク」（＝推し）について語り合い、コーディネーター作の「キーワードカード」を元に、カードに書いてあるお題について意見を交換しあった。また、途中でメンバー替えを行い、参加者（生徒、教員、講師）が多様な他者の価値観に触れられるようにした。交流全体を通じて、コミュニケーションを取る上で「伝える」と「伝わる」とはどのように違うかを意識させた。



### (3) 玉高の三S

本校では数年来、中部大学の井上徳之教授の指導の下、探究活動のブラッシュアップに励んできた。学習内容をユニットで捉えなおし授業構成を構造化するのも、井上先生のアドバイスによる。その井上先生から、学ぶ意欲を高めるためには互いを認め合う環境をつくるのが重要であると伺い、総探の活動においても、リアクションの際に「すごい、さすが、素晴らしい」といったポジティブな言葉かけを意識的に行うよう促している。三つのSが付く言葉、「玉高の三S」である。（※本校オリジナルではなく、これらは褒めの達人が使う、世間ではよく知られたキーワードである。）

## 4 課題と展望

### (1) 生徒を巻き込んだ授業づくり

プログラムが立ち上がった初年度ということもあり、教員主導で進む場面が多かったが、授業づくりにもっと生徒自身に関わることができるのではないかと、その可能性を感じることもあった。玉高エジソンなどは、今年度の経験を踏まえて、生徒のアイデアを企画に活かしたり、進行の一部を生徒が担ったりすることができるのではないだろうか。今後、生徒が主体的に関わる工夫や場面を考えていきたい。

### (2) ICT機器と情報リテラシー

一人一台端末が導入され、この年次の生徒たちは高校入学前から既に端末を用いた学習を経験してきた。情報検索やスライド作成も難なくこなすことができる。しかし、便利なツールを使いこなせているかというところではなく、表層的な情報を拵って満足してしまうことが多い。簡単には答えが出ない、答えが一つとは限らない問いに立ち向かうためには、多角的・多面的な視点に立った考察が必要であり、そのためにどのような情報が必要かを考えながら、情報を収集・活用する力を身につけなければならない。